

科技高 いきもの記

Vol.45 2022.2.25

生物教員 佐藤龍平

こんなところにも冬眠する生物が！ ゴマダラチョウの越冬幼虫



落ち葉の下で冬眠中のゴマダラチョウの幼虫 *Hestina persimilis japonica*

2本のツノが生えていてとても可愛らしい。暖かくなったら木に登り再び葉を食べ始める。



↑ひととき目立つさなぎを発見した。



↑じっと動かない越冬幼虫。夏は鮮やかな緑色だが、冬眠時はこのように茶色になる。周囲の色に溶け込ませているようだ。背中には3対の突起があり、外来種のアカボシゴマダラや国蝶のオオムラサキはこの突起が4対なので見分けがつく。



エノキの木の根元にたまった落ち葉とそこにいる幼虫（4匹）

冬は落ち葉の中でじっと春を待つ。整備された公園ではこういった落ち葉が掃かれてしまうので、このような生き物は住めなくなってしまう。



正面ドアップ 大人になると黒地に白い斑点模様を持つ翅幅5cmほどのチョウになる。

猿江公園でフユシャクを探していたら、鮮やかな緑色のチョウのさなぎを見つけた。あたりは枯れ葉だらけで一面茶色い冬景色なので、緑色のさなぎはやけに目立つ。アゲハ系でもないしモンシロチョウでもないし…はて？何のさなぎだろう？図鑑のページをめくると、**ゴマダラチョウの仲間**に似ていることが分かった。さては、最近勢力を拡大中の特例外来生物、アカボシゴマダラか？！と思ったが、ちょっと見た目が違う気がする。もしかして、アカボシゴマダラのせいで住処を奪われつつある在来種のゴマダラチョウのほうか！近年数が減ってきているということだが、猿江には健在だったか！

本来、ゴマダラチョウの仲間は**幼虫の姿で越冬**するので、今回見つけたさなぎは何らかの原因で夏に羽化できなかったものだろう。猿江にゴマダラチョウがいるなら、是非とも越冬中の幼虫を見てみたい。越冬中の幼虫は、**エノキの木の根元でひっそりと冬を越す**らしい。エノキかあ…キノコのエノキなら分かるけど、樹木の方のエノキはどんな木か知らない…。今度は樹木図鑑を開いて、エノキの樹皮や枝の付き方を覚えて、もう一度公園へ向かった。すると、今まで素通りしていた木の中にエノキっぽいものが見えてくる。たぶんこれがエノキの木だろう、

と当たりを付けた木の根元を見て、落ち葉がたまっている場所を探す。たまった落ち葉を1枚ずつめくってみると……**おおっ！いた！本当に幼虫がいた！**あまりにも狙い通りに見つけられたので驚いてしまった。あらかじめ調べておいたゴマダラチョウとアカボシゴマダラの幼虫の違い（背中突起の違い）を確認すると、この幼虫は**ゴマダラチョウであることが分かった。**

たまに、「先生って生き物に詳しいですね。」と言われることがあるが、決してそんなことはない（世の中の生物教師はもっと詳しいと思うけど）。こうやって分からないことを調べて、新たな出会いに感動しながら、少しずつ視野を広げているだけだ。みんなと変わらない（むしろみんなの方が詳しいことの方がよくある。）

今日もまた、ゴマダラチョウとの出会いによって、普段は目もくれていなかった樹木にまで目が行くようになった。また世界の解像度が少しだけ上がった気がして楽しくなる。

参考文献：・鈴木知之, 2015, ずかん さなぎ, 技術評論社

・鈴木庸夫, 高橋冬, 安延尚文, 2014, 樹皮と冬芽: 四季を通じて樹木を観察する 431種, 誠文堂新光社